

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

新潟大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	4
------	---

《本文》	5
------	---

《判定結果一覧表》	29
-----------	----

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

○：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※

●：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

新潟大学は、高志の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究を通じて、人類の知の継承・創造につとめ、世界の平和と発展に寄与することを全学の目的とする。

この目的を実現するために、新潟大学は、人文社会科学、自然科学、生命科学全般にわたる教育研究を行う大規模総合大学として、多様な価値観を共有できる有為な人材の育成と特色のある研究、融合的研究の推進に全力を尽くす。そして、日本海側ラインの中心新潟にあるという本学の特色を活かし、新潟からアジア、世界に発信するネットワークを構築し、国際的な広がりを持った地域創生に寄与する。

新潟大学は、人材育成目標を踏まえて教育課程を抜本的に見直した学位プログラムによる教育を深化させる。学士課程においては教養教育と専門教育が融合した教育を行い、地域に根ざし世界で活躍できる課題発見・解決能力に富んだ職業人を養成する。大学院においては時代の要求に即応することのできる、より進んだ学際的な教育と研究を行い、チャレンジ精神に満ちた高度の専門的職業人及び研究者を養成する。また、優秀な留学生や学び直しを望む社会人にも広く開かれた大学を目指す。

研究面では、脳研究など世界トップレベルにある分野をはじめ、強み特色のある研究を推進することによって、大学全体の研究力を高める。こうした教育研究活動の活性化を実現するために若手研究者、女性研究者、外国人研究者など多様な人材を登用する。

新潟大学は、新潟県・近隣諸県、農業など地域の特色ある産業との連携プラットフォームを構築して、地域課題の解決に向けてのグローバルな取組を展開し、地域の活性化を牽引する。そして、質の高い健康長寿社会の形成を目指し、高齢社会が直面する様々な問題の解決に資する研究に力を尽くす。医歯学総合病院では、地域医療に貢献するとともに、高度専門医療人の養成と先進的医療技術の開発を行い、日本海側ラインの基幹病院として、最高・最先端の医療を持続的に提供する。

新潟大学は、上に掲げた目標に向かい、学長のリーダーシップの下、全学をあげて邁進する。

1. 新潟大学は約 150 年前に前身となる学校が開設されて以来、長い歴史と豊かな伝統を育み、現在は 10 学部（人文学部、教育学部、法学部、経済科学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部、創生学部）、5 研究科（教育実践学研究科、現代社会文化研究科、自然科学研究科、保健学研究科、医歯学総合研究科）、2 研究所（脳研究所、災害・復興科学研究所）、医歯学総合病院等を有し、学生約 13,000 人、教職員約 3,000 人を擁する全国有数の大規模総合大学に発展してきた。
2. 教育においては、専門分野だけでなく広い視野と均整の取れた知識の修得にも努め、学生に現代社会を生き抜く確固たる実力を身につけさせることを目指している。そのため、学位プログラム（人材育成目標に基づいてカリキュラム設計された教育プログラム）に基づく教育を推進している。特に、学士課程教育において、既存学部の改組・再編（2017 年度：自然科学系 3 学部、2020 年度：人文社会科学系 4 学部）に加え、学生自身が学修をデザインする到達目標創生型の「創生学部」を 2017 年度に新設し、2021 年度から「全学分野横断創生プログラム」を開始するなど、総合大学の教育資源を十二分に活かした自発的・発展的学習の機会を学生に提供している。また、地域や企業など学外のフィールドで学生が主体的に活動する「長期学外学修」や「ダブルホーム」制度を展開している。

3. 学生支援においては、障がい学生支援の充実を含めた学生生活におけるきめ細かい相談体制の構築、キャリアセンターを中心とするキャリア形成支援と就職支援、大学独自の奨学金制度「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」の大学院への拡大など、学生がより成長するための環境の整備・充実を行っている。
4. 研究においては、伝統的な専門分野における研究を一層深化させるとともに、積極的に分野を超え、あるいは異分野融合型の未来を見据えた新分野の研究を推進し、数多くの独創的で特色ある研究成果を世界に発信している。また、脳神経病理資源活用の疾患病態共同研究拠点である「脳研究所」、日本海側唯一の総合的災害研究機関である「災害・復興科学研究所」において特徴ある研究を展開するとともに、全学共同教育研究組織として、「環東アジア研究センター」、「佐渡自然共生科学センター」、「日本酒学センター」を新たに設置し、社会に開かれた学際的な研究環境の創成を推進している。
5. 社会連携・社会貢献活動においては、新潟県内の自治体や企業等との連携協定を積極的に締結し、総合大学ならではの幅広い分野での協力体制を構築しながら、「燕三条医工連携コンソーシアム」の設立、持続可能な地域社会を目指した「佐渡モデル」の構築、新品種「コシヒカリ新潟大学 NU1号」の研究開発など、企業や各地域の課題に応じた様々な事業を展開している。また、「環東アジア地域教育研究ネットワーク」を設置し、知・地の拠点として、環東アジア地域における文化・歴史、政治・経済、医療、産業技術等の課題提起・提言による教育研究成果の発信、社会で活躍する人材輩出等を通じた社会還元効果を高める基盤となる域内プラットフォームの機能を強化する活動を展開している。さらに、コロナ禍におけるキャンパスのグローバル化に向けたオンラインプログラムを積極的に開発している。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- 本学の先導的教育改革の取組による資源（全学科目化、分野・水準表示法、主専攻・副専攻プログラム等）を最大限活用し、既存学部再編と学生自身が学修をデザインする到達目標創生型の創生学部新設を起点に教育改革を断行する。教育組織再編・強化・改善のサイクルを継続的に実施するため、全学組織「教育・学生支援機構」再編等を通じ、学長直轄下の本部との連携に基づく教学ガバナンス強化によって、全学の改革を加速させる。
(関連する中期計画 1-1-1-1, 1-1-1-2, 1-1-3-1, 1-2-2-1, 1-2-3-1)
- 全学司令塔の下に、日本海側中央にある新潟の地から環東アジア地域へ、環東アジア地域から新潟の地へ、の社会還元型の相互連携強化を目的とした部局横断のネットワーク型教育研究拠点を形成する。グローバル化が進行する中、知・地の拠点として、環東アジア地域における文化・歴史、政治・経済、医療、産業技術等の課題提起・提言による教育研究成果の発信、社会で活躍する人材輩出等を通じた社会還元効果を高める基盤となる域内プラットフォームの機能を強化する。
(関連する中期計画 3-1-1-1, 4-1-1-1)
- 健康長寿と安全・安心社会形成への貢献のため、先駆的研究によるイノベーション創出と次世代人材育成の機能を強化する。そのため総合大学の強みを活かし脳・神経科学はじめ医歯学分野におけるデータ利活用等分野を超えた融合・連携研究すなわち「超域」研究の活性化を通じ、国内外の分野間・研究者コミュニティ間ネットワーク拠点へ進展させる。これらの実現に向け全学的テーマを複数年で設定、重点化する。
(関連する中期計画 2-1-1-1, 2-1-1-2, 2-1-2-3, 2-1-3-3)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画（◆）]

- 本学が全国に先駆けて整備した主専攻プログラム（学位プログラム）を深化させ、地域課題など現代の複雑な課題を解決できる、専門分野に立脚した人材，幅広い分野に適応する能力と専門知識を兼備した人材を育成する。
(関連する中期計画 1-1-1-1, 1-1-1-2, 1-1-2-1, 1-1-2-2)

- 日本海側ラインの中心に位置する大規模総合大学の特色を活かし、各分野における環東アジア地域交流の中で、日本海側の地域課題に対し提言するシンクタンク活動，産学共同連携事業等を通じ、地域創生とともに、グローバルな視点から地域課題に取り組むことのできる人材育成機能と環東アジア地域研究機能を強化する。
(関連する中期計画 3-1-1-1, 4-1-1-1, 4-1-1-2)

- 国立大学附置研究所で脳を対象とした唯一の研究施設であり、かつ、神経内科，脳神経外科の臨床分野も有する特色的な本学脳研究所において、脳疾患先端医療を実践するクリニカルリサーチセンターを拠点とし、基礎と臨床の一体化を基盤とした先端的かつ高度な脳疾患研究・医療を実践する。
(関連する中期計画 2-1-1-1, 2-1-1-2)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、新潟大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を 上げている	【3】 達成して いる	【2】 十分に達 成してい るとはい えない	【1】 達成して いない
I 教育に関する目標	【3】 達成している					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している		2	3		
2 教育の実施体制等に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		3	2		
3 学生への支援に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1	1		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 達成している			1		
II 研究に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		3			
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 達成している			2		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている					
	なし		2	1		
IV その他の目標	【3】 達成している					
1 グローバル化に関する目標	【3】 達成している			1		
2 大学間連携による教育・研究等に関する目標	【3】 達成している			1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、2項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）5項目のうち、2項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定	判断理由
新潟大学は、日本海側ラインの中心新潟にある大規模総合大学の特色を活かし、学士課程において教養教育と専門教育が融合した学位プログラムを深化させ、地域課題など現代の複雑な課題を解決できる、専門分野に立脚した人材、幅広い分野に適応する能力と専門知識を兼備した人材を育成する。	【4】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「創生学部での課題解決型教育の展開」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》 (優れた点) ○ 学位プログラムの内部質保証 学位プログラムの内部質保証を実質化する観点から、学士課程及び大学院課程の双方において、学位プログラムの新規開設から実施後の評価、改善に至るまで、学長統括の下で、	

	<p>3つのポリシーに基づき一貫して管理・運営するシステム (新規開設の妥当性審査・承認及び評価指針に基づく自己点検・ピアレビュー実施と改善計画の策定・承認、改善の実行と中間フォローアップ等)を、全学的かつ体系的に構築している。(中期計画 1-1-1-1)</p> <p>○ 創生学部での課題解決型教育の展開 平成 29 年度に設置した創生学部では、学生が自ら到達目標を定め、分野横断的な課題解決型の学修科目、地域と協働した長期学外学修の「フィールドスタディーズ」及び全学の教育資源を活用した領域学修の中で、 Semester ごとの振り返りを行いながら次期の学修をデザインしていくという新たな教育プログラムを展開している。この科目は、令和元年度の文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」において、最優秀賞を受賞している。創生学部の教育理念及び方法は、令和 2 年度に設置した経済科学部の 2 つの新しいプログラムである「学際日本学プログラム」、「地域リーダープログラム」にも取り入れるなど、全学展開を図っている。(中期計画 1-1-1-2) (特色ある点)</p> <p>○ 学位プログラム評価指針の策定 人材育成目標の達成状況を含む学修成果に基づいて、学位プログラムを評価するための指針を設定するとともに、主専攻プログラムごとに、総括的評価を行うための成果指標を明確化している。(中期計画 1-1-1-1)</p>
--	---

小項目 1-1-2	判定		判断理由
<p>地域に根ざし世界で活躍できる課題発見・解決能力に富んだ人材を育成するために、主体性を重視した教育課程を整備し、学生の自律的な学修を強化する。</p>	【4】	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「学士力アセスメントシステムの活用」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 学士力アセスメントシステムの活用</p> <p>学士課程のカリキュラムに、初年次での長期学外学修や能動的学修に関する授業科目を必修科目として位置づけるなど、初年次学生の主体性を重視し、学びへの動機付けを高める転換教育を行ったことにより、それぞれの専門性を背景とする能動的学修態度を育成している。NBAS（新潟大学学士力アセスメントシステム）のアセスメントシート作成機能を用いて、学期ごとに、学生が自身の学習を省察し、それに対して教員が面談やコメントの記入により次期の学修をデザインするリフレクションデザインを実施している。（中期計画 1-1-2-1）</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 学外学修プログラムの実施</p> <p>地域の教育力を活用した「学外学修プログラム」（学外学修プログラム実施状況：平成 28 年度 52 名から令和元年度 1,226 名に増加）や「ダブルホーム活動」（ダブルホーム活動参加学生数：平成 27 年度 316 名から令和元年度 409 名に増加）を通じて、行政や産業界等を含む地域の課題解決に主体的に関わる学生が増加している。また、これらの活動に対して、学生はもとより地域の参加者もその効果を高く評価している。ダブルホーム活動を、シチズンシップやチームワーク力等の学生の「汎用的能力」を育成する活動としてだけでなく、「地域の魅力発信」に貢献する活動としても位置づけ、自治体が行う助成事業への応募やクラウドファンディ</p>			

	<p>ングによる寄附金の受入れなど、行政や産業界とのつながりを強化している。(中期計画 1-1-2-2)</p> <p>○ 学生の主体性重視の教育課程</p> <p>医学部における診療参加型臨床実習の大幅な拡大、歯学部における PBL 科目や模型・シミュレーション実習科目の拡大及び各学部における地域での実習やインターンシップの強化・充実など、各教育プログラムの特性に応じた能動的学修の拡大や教育方法の改善により、課題発見・解決能力を涵養する教育に変革している。(中期計画 1-1-2-3)</p>	
小項目 1-1-3	判定	判断理由
<p>大学院教育課程において、チャレンジ精神に満ち、高い専門性と汎用的かつ実践的能力を有する高度の専門的職業人及び研究者を養成するため、学位プログラムを継続的に改善し、時代の要求に即応することのできるより進んだ学際的な教育研究を行う。</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p> <p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 多様な教育プログラムの開発</p> <p>学士課程・大学院教育課程を一体的に融合した分野横断型の「社会システム工学プログラム」(令和3年度設置予定)及び組織横断型の分野融合プログラムである「日本酒学プログラム」の整備・開発を完了させている。さらに、環東アジアの現在の情勢を的確に把握し、将来の社会構築に活用していくことを構想できる人材を育成する「環東アジア融合プログラム」の開発や激しい気候変動や環境変化による自然災害、食料不足等の現状を学び、対処を立案する理学・農学を主体とした「フィールド科学プログラム」の開発を行っている。(中期計画 1-1-3-1)</p>	
小項目 1-1-4	判定	判断理由
<p>新潟に基軸を置き、アジア、世界で活躍するために必要となる異文化理解能力を備え、社会の国際化に柔軟に対応できる人材を育成する。</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p> <p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 海外留学の促進</p> <p>アジアを対象とする海外派遣プログラム数の倍増並びにロ</p>	

	<p>シア、トルコ、ASEAN における「大学の世界展開力強化事業」の実施等により、海外留学者数が増加（第2期中期目標期間平均 500 名、平成 28 年度 591 名、平成 29 年度 689 名、平成 30 年度 769 名、令和元年度 607 名）するとともに、アジア、世界で活躍するために必要となる異文化理解能力を備え、社会の国際化に柔軟に対応できる人材を育成している。（中期計画 1-1-4-1）</p> <p>○ 実践的な英語運用能力の向上 第2ターム集中型実践英語教育プログラム iStep (Intensive Short-Term English Program)、創生学部2年次を対象とする実践英語教育プログラム P. A. C. E. (the Program for Academic and Communicative English) を開始し、実践的英語運用能力向上を希望する学生のニーズに応える英語教育プログラムを提供している。（中期計画 1-1-4-1）</p>		
小項目 1-1-5	判定		判断理由
<p>授業科目における学修成果をより正確に保証するために、各教育プログラムの成績評価を改善する。</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 医学部における臨床能力の評価方法の開発 医学部医学科において、臨床実習オンライン評価システム (e-ポートフォリオ) を構築し、学生が実習についての自己評価や経験症例、指導への評価を入力することが可能となり、それらの記載内容を基に形成的評価を実施している。（中期計画 1-1-5-1）</p> <p>○ 歯学部における臨床能力の評価方法の開発 歯学部の「診療参加型臨床実習」において、学生のパフォーマンスを直接評価する方法を開発し、その手法をプログラム評価に拡大して、教育プログラムを通じた学修成果の把握・可視化を実現している。歯学部における重要科目での埋め込み型パフォーマンス評価 (PEPA) は、学修成果の把握・可視化に関する優れた先行事例として中央教育審議会・教学マネジメント特別委員会で紹介されている。（中期計画 1-1-5-1）</p>			

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 5項目のうち、3項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
<p>学生の主体性を重視した教育課程への転換に合わせ、各教育プログラムにおける授業科目を円滑かつ適切に開設する体制を整備する。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「授業科目の精選」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 授業科目の精選</p> <p>学生の主体性を重視した教育課程への転換に合わせ、平成29年度に策定した「初年次教育改革を契機としたカリキュラム編成に係るガイドライン」に則り、各教育組織において授業科目の精選を行った結果、第2期中期目標期間末より386科目を減らすなど授業科目が精選されたとともに、リメディアル教育や長期学外学修など導入・転換教育を実施している。また、従来分野・水準表示に、コンピテンシーベースで科目を分類・整理できる機能を加えるという改善方針を打ち立てるなど、授業科目の体系化を図っている。(中期計画 1-2-1-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 教員の機動的配置体制</p> <p>教員所属組織である学系・系列を学問分野に基づいた区分に再編し、創生学部等への科目担当教員の派遣体制を平成29年度に整えたことにより、創生学部と人文学部、工学部と創生学部、経済科学部と人文学部、教育学部と経済科学部</p>			

	<p>のように、モジュール化された科目群に対応し、複数学部への科目担当教員の派遣が可能となっている。(中期計画 1-2-1-1)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響下においても、より良いオンライン授業の実施に向けて、次の取組を行っている。令和2年7月には、授業担当教員が抱える遠隔授業の実施方法や成績評価に関する課題について、「オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングと成績評価」を開催し、オンライン環境における具体的な実践と評価の事例やそこから見てきた成果や課題に関して共有を図っている。さらに、オンライン授業の成績評価のデザインや試験期間中に起こりうる事態の想定と準備、コロナ後の大学教育への展望を抱く機会となっている。オンライン授業への転換は、緊急事態下の一時的な対応に留めず、新しい大学教育の資産として継続して活用していくことを視野に入れながら、今後のカリキュラム及びそのマネジメントのあり方について検討を進めている。</p>		
<p>小項目 1-2-2</p>	<p>判定</p>		<p>判断理由</p>
<p>人材育成目標に対する学修成果の評価により、学修の質を保証する新たな体制を整備する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 学修成果評価のための全学的な体制</p> <p>教育戦略統括室、教育・学生支援機構、評価センター及びIR推進室の連携により、各教育プログラムにおける学修成果の評価を支援する全学的な体制を整備し、FD等を通じて学修成果の評価に関する基本的な考え方や方法並びに国内外のトレンドを各教育プログラムと共有している。また、学位プログラム評価実施時に全学で有する資料・データを提供することにより、各教育プログラムの資料収集・分析に係る負担を軽減している。各教育プログラムでは、この全学的な支援体制を活用して、人材育成目標に対する学修成果の評価を実施するための3ポリシーの修正及び具体的な点検事項と収集する資料・情報及び実施体制を明示した学位プログラム評</p>			

	価指針を策定している。(中期計画 1-2-2-1) ○ 3ポリシーと学位プログラム評価指針策定支援 学士課程及び大学院課程における3ポリシー及び学位プログラム評価指針の策定に当たって、教育戦略統括室(平成28年度設置)が中心となって説明会やFDを企画・開催するとともに、各教育プログラムからの質問・相談への対応を含め、3ポリシー及び学位プログラム評価指針策定支援を行っている。(中期計画 1-2-2-1)		
小項目 1-2-3	判定		判断理由
能動的学修の拡充, 学事暦の柔軟化及びソリューション志向型人材育成を目的とする新たな教育システムの導入を円滑に行うため, 教育支援体制を整備する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
≪特記事項≫			
(優れた点) ○ 複数学部担当教員の普及 複数学部担当教員を17名配置し、それぞれの学部でエフォートを調整しつつ、2学部の教育、学部運営等に従事するなど、複数学部担当を実際に機能させている。また、この複数学部担当教員のシステムが令和2年度から他学部にも取り入れられるという波及効果も生まれている。当初の計画にはなかった複数学部担当教員の交替に伴う交流システムを確立し、実際に交替する人員を決定している。(中期計画 1-2-3-3) (特色ある点) ○ 全学的な教学マネジメント体制 教育改革の中核的な組織として、経営戦略本部に教育戦略統括室を設置するとともに、教育・学生支援機構に、能動的学修を支援する学位プログラム支援センター及び学外と連携した教育を支援する連携教育支援センターを設置し、全学的な教学マネジメント体制を整備している。(中期計画 1-2-3-1)			

小項目 1-2-4	判定		判断理由		
<p>全学的なファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動を活性化し、教職員の教育能力を向上させる。</p>	【4】	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「FD・SDの階層化」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 		
			<p>《特記事項》</p>		
			<p>(優れた点)</p> <p>○ FD・SDの階層化</p> <p>階層化(大学ー学位プログラムー科目レベル)されたFD・SDの体制を構築し、意図的・計画的に実施したことにより、FDへの参加率を年間で全教員の75%とするという目標は達成され、教職員の教育能力の向上につながっている。また、大学ー学位プログラムレベルでは、学修成果の評価及びそれに基づく学位プログラム評価に関するFDを継続的に開催することで、人材育成を目的とした学位プログラムの在り方に対する教員の認識を深め、3ポリシー(カリキュラムポリシーにアセスメントプランも含まれる)の改訂と学位プログラム評価指針の策定につながっている。(中期計画 1-2-4-1)</p>		
小項目 1-2-5	判定		判断理由		
<p>佐渡島の森, 里, 海の自然豊かな環境の中に位置する本学の施設を活用した実践的・融合的な教育を活性化させる。</p>	【4】	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「地域創生人材の育成」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 		

	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 地域創生人材の育成</p> <p>教育関係共同利用拠点としての「佐渡自然共生科学センター演習林」及び「佐渡自然共生科学センター臨海実験所」において、佐渡島の森、里、海の自然豊かな環境の中に位置する特性を活かした、国内外の大学等との共同利用実習の件数の増加、融合的な教育としての森里海連環学実習の充実及び国際的な実習の増加等により、令和元年度の利用者は平成27年度より21%（平成27年度3,015名、令和元年度3,654名）増加し、特に海外からの利用が増加して、当初の予定を超えて国際的な教育機能の強化につながっている。また、「佐渡自然共生科学センター」への統合による連携体制の強化、理農連携のフィールド科学人材育成プログラムにおける多様な形態の実習の開始及び文部科学省DESIGN-i事業を活用した地域創生人材の育成等、実践的・融合的な教育を実施している。（中期計画1-2-5-1）</p>
--	---

(3) 学生への支援に関する目標（中項目1-3）

<p>【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている</p> <p>(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目1-3-1	判定	判断理由
<p>一万人を超える学生を抱える本学において、多様な学生の向学心と主体性を支え、安心して学生生活を送れるように、学習支援、健康面での支援及び経済的支援を充実させる。</p>	<p>【3】</p> <p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 学士力アセスメントシステムを用いた履修指導</p> <p>ほぼ全ての主専攻プログラムにおいて、学生がセメスターごとに「新潟大学学士力アセスメントシステム(NBAS)」の「アセスメントシート」作成機能を用いて自身の学習を省察(リフレクション)し、教員のアドバイスを参考にして、次</p>	

	<p>期の学修をデザインする取組を進めることで、学生の主体的学修を促す履修指導を実施している。(中期計画 1-3-1-1)</p> <p>○ 学生支援相談ルームの相談体制</p> <p>学生相談支援ルームにカウンセラー（臨床心理士）を2人配置し、学生対応についての専門的知識や情報を提供するだけでなく、学生の悩みについての相談に応じるとともに、教職員からの複雑で困難な相談事例に対し、教職員を心理的にもサポートし、迅速かつ適切な相談を行うことにより、学生相談支援ルームの利用者が平成27年度の約1.8倍（平成27年度634件、令和元年度1,151件）に増加している。(中期計画 1-3-1-3)</p> <p>● 新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージの実施</p> <p>新型コロナ対策緊急サポート窓口を設置し、学生に対する財政面での支援として、迅速な審査・貸与が可能な大学独自の貸与金として、令和2～3年度に学生41人に計3,480千円を貸与している。このうち15人は、学生自立支援として実施した学内アルバイトへの従事により、貸与金の返還免除を行い、5人は今後貸与金の返還免除を行う予定としている。さらに、迅速な審査・給付が可能な大学独自の給付金として、真に困窮している学生に対して面接を実施のうえ、令和2～3年度に66人に計3,300千円を給付している。(中期計画 1-3-1-4)</p>	
小項目 1-3-2	判定	判断理由
<p>学生の主体性を重視し、満足度を高める進路・キャリア形成支援を実施する。</p>	<p>【4】</p> <p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p> <p>・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「キャリア形成支援の実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p> <p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ キャリア形成支援の実施</p> <p>各学部・研究科と教育・学生支援機構の密な連携の下、早</p>

	<p>い段階から正課科目の開講・正課外の各種行事の実施・個別支援等を行うことにより、直近4年間で就職率が98%を超え、特に令和元年度は過去最高となる学部99.3%、研究科99.8%を達成している。また、アンケート等を通じて学生の意見・要望を把握し、実施時期等を含めて実施内容を改善したことにより、例えば、令和元年度のインターンシップ事前準備講座に参加した97%の学生から、インターンシップに臨む準備として「非常に参考になった」、「参考になった」との高い評価を得ている。さらに、新たな取組として、地域でのキャリア形成への関心を喚起する「新潟地域志向科目」の開講（令和元年度112科目、延べ履修者数7,699名）及び「新潟創生人材育成プログラム（3件）」の開設、大学院学生に特化したキャリア支援及び就職支援等を行う「PhDリクルート室」の設置等を行っている。（中期計画1-3-2-1）</p>
--	--

（4）入学者選抜に関する目標（中項目1-4）

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>（判断理由）「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 1-4-1	判定	判断理由
<p>課題の発見と解決において重要となる「学力の三要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を含む人材育成目標に対応した入学者受入方針の改善と入学者選抜制度への転換を行う。</p>	<p>【3】</p> <p>中期目標を達成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	<p>《特記事項》</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 新たな入学者選抜の導入</p> <p>平成29年度の創生学部の新設及び自然科学系学部（理学部、工学部、農学部）の改組に伴い、いずれも1学部1学科の構成としたことにより、各学部において大括り入試を導入し、学生の専門選択の幅を広げた。さらには、多面的・総合的評価に対応する入試としてのAO入試（令和3年度入試からは「総合型選抜」）を導入・拡大している。（中期計画1-4-1-1）</p>	

	<p>○ 高校との連携による入学者選抜方法の開発</p> <p>新潟県内の高等学校等と連携・協力して、創生学部が令和3年度入試で導入予定の総合型選抜で課す「講義を聴講して課題レポートを課す試験」の試行試験を通じた試験内容に関する意見収集、主体性等を評価する新たな入試方法「ペーパー・インタビュー」のトライアルテストを実施している。これらを基に「学力の三要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を総合的かつ適切に評価する新たな入学者選抜方法を開発している。（中期計画1-4-1-2）</p>
--	--

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
脳疾患に関する国内有数の研究施設である脳研究所を中心に、基礎と臨床の一体化を基盤とした先端的かつ高度な脳疾患研究・医療を実践する国内・国際共同研究拠点を形成する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「脳画像・脳神経病理研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ 脳研究所による特許獲得 脳研究所として初めて難治性脳神経疾患に関する基礎的なシーズの発見から、その医師主導治験を開始する準備を整えている。また、脳血管障害の治療シーズを複数開発し、特許（脳卒中に対する末梢血幹細胞医療、脳血管障害に対する薬物療法）を獲得している。(中期計画 2-1-1-1)		

	<p>○ 脳画像・脳神経病理研究の推進</p> <p>脳画像研究、脳神経病理研究の推進のため、組織を再編し、2分野を新設、若手のオープンラボ設置による、若手研究者の研究環境改善と機能強化を推進し、その成果として、論文数では第2期中期目標期間の最終年度平成27年度（128本）から令和元年度（174本）には36%増加している。Top10%論文は23件に上がっている。外部資金獲得額では、令和元年度5億4,104万4,000円で、平成27年度（2億3,216万2,000円）から2.3倍に増加している。特筆すべき研究成果として、マウスの全脳レベルでの神経細胞・ネットワークの可視化並びに病理学的応用を目的とした組織透明化及び3Dイメージング技術に関する研究等がある。（中期計画2-1-1-1）</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ アルツハイマー病の発症前診断への貢献</p> <p>アルツハイマー病の発症前診断の候補薬が世界初のアクアポリン4促進剤として認められ、国際特許を申請するとともに、製薬企業と創薬に向けた共同研究を開始している。また、研究成果をセミナーや国際シンポジウムを開催して国内外に向けてアピールすることが決まったことから、基礎と臨床から創薬への一体化を基盤とした企業との共同研究及び国際的な視野に立った今後の研究の展開ができるようにしている。（中期計画2-1-1-2）</p> <p>○ 脳神経難病診断への貢献</p> <p>アクアポリン分子画像を用いた腫瘍の悪性度診断の成功、磁気共鳴分子顕微鏡を用いた脳内のシナプス密度の評価が可能となる画像取得法の開発等により、脳神経難病の超早期診断法確立の加速化に貢献している。（中期計画2-1-1-2）</p>
--	---

小項目 2-1-2	判定		判断理由
<p>特定分野における先端的研究，強み特色のある研究を重点的に推進し，優れた成果を発信する研究拠点を形成する。</p>	【4】	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「防災ネットワークの構築」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 防災ネットワークの構築</p> <p>災害・復興科学研究所では、自然災害の防止に関する学術研究と交流及び研究成果の普及を促進するため、研究機関だけではなく、行政機関等とも連携協定を締結している。この取組により、災害・復興科学研究所が開発した「準リアルタイム積雪分布監視システム」が鳥取県で、国立研究開発法人防災科学技術研究所等と共同で開発した積雪重量分布情報「雪おろシグナル」が日本海側の複数の県でそれぞれ運用されている。(中期計画 2-1-2-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 複合災害研究の展開</p> <p>冠雪活火山地域における「火山-雪氷複合災害シナリオモデル」の構築に関する分野横断型研究を進め、火山噴火頻度に関する新たな評価手法を構築し、安達太良火山・磐梯火山の過去の噴火及び火山泥流記録を解明するなど、冠雪活火山周辺の火山土砂輸送とその災害に関する研究を大きく進展させ、IF (インパクトファクター) 値の高い国際誌に3編の論文が掲載されるとともに、地域の火山防災に貢献している。(中期計画 2-1-2-1)</p> <p>○ 日本酒学の構築</p> <p>世界で初めての日本酒に関連する多くの学問分野が参画する「新潟大学日本酒学センター」を平成30年に設置し、新潟県、新潟県酒造組合と連携して、日本酒に係る文化的・科学的な広範な学問分野を網羅する「日本酒学」を構築してい</p>			

	<p>る。(中期計画 2-1-2-3)</p> <p>○ 環境エネルギー研究の推進</p> <p>「環太平洋ソーラー燃料システム研究センター」を設置し、海外の研究機関との太陽熱研究に関する包括的研究協定の締結、協定締結先を含む学内外の大学・民間等の研究者との研究組織の構築により、オーストラリアや韓国等における実証実験に参画するなど、太陽熱と水を利用した水素製造システムの研究開発を世界規模で進めている。(中期計画 2-1-2-3)</p>	
小項目 2-1-3	判定	判断理由
<p>学問（研究）の自由を保障し、自然科学から人文社会科学にわたる幅広い分野の基礎・応用研究力をより強化するとともに、分野を超えた融合研究を創出する。</p>	<p>【4】</p> <p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「国際的な成果発信の支援」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p>		
<p>(優れた点)</p> <p>○ 国際的な成果発信の支援</p> <p>国際的に評価の高い学術誌への投稿や国際会議への参加・誘致に対する財政的支援（「論文投稿支援事業」、「論文投稿支援プログラム」及び新潟県・新潟市による国際会議開催助成制度）により、平成 28 年度から令和元年度の年平均の Web of Science 掲載論文数が、第 2 期中期目標期間の年平均（925 本）より 17%増加（1,081 本）している。さらに、平成 27 年度の国際会議発表数 562 件に対して、令和 2、3 年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、40.9%減少、27.4%減少となったものの、令和元年度においては、39.5%増の 784 件に達している。(中期計画 2-1-3-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 佐渡自然共生科学センターの設置</p> <p>令和元年度に「理学部附属臨海実験所」、「農学部附属フイ</p>		

	<p>ールド科学教育研究センター佐渡ステーション（演習林）」、「朱鷺・自然再生学研究センター」の佐渡3施設を統合した「佐渡自然共生科学センター」を設置し、森・里・海を活用した生態系の統合的な理解・保全に資する研究に加え、人文社会科学のテーマによる研究の開始等、学際的環境科学研究を推進することで、自然科学分野に留まらず、人文社会科学分野との融合研究を創出する新たな体制を構築している。特に、文部科学省事業「科学技術イノベーションによる地域社会課題解決（DESIGN-i）」への採択及び全国で唯一の次年度への継続により、生物多様性と農業技術革新が共存する里山創生の新たなモデル開発を目指した活動を展開している。</p> <p>（中期計画 2-1-3-1）</p> <p>○ 異分野融合研究の支援</p> <p>異分野融合研究を支援する「U-go プログラム」を実施することで、鉱物学、環境放射線学、社会疫学及び動物発生生殖学等の研究者が会って科学研究費助成事業（国際共同研究 B）を獲得したケースが現れるなど、学内外の異分野連携・融合研究を行う共同研究を強化している。（中期計画 2-1-3-3）</p>
--	---

（2）研究実施体制等に関する目標（中項目 2-2）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
若手研究者が主体的に課題を設定し、挑戦的な研究に取り組むことができるように、研究者の育成・支援のための体制を整備し、国内外から能力の高い若手研究者を確保する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

小項目 2-2-2	判定		判断理由
研究の質を向上させるとともに、社会からの要請等に柔軟に対応できる研究支援体制を構築する。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
《特記事項》			
<p>(特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究設備維持運営費の有効活用 研究設備維持運営費の一部を共用化に資するインセンティブ経費とし、共用設備としてオンライン予約・課金システムに登録した研究設備の管理者に配分する「新規登録費」及び共用設備に対する「修理費」として活用している（平成30年度からの2年間に、新規登録費13件、修理費3件を採択）。（中期計画 2-2-2-1） ○ 設備共用化の促進 「共用設備基盤センター」を設置し、「研究設備全学共用化推進事業」を立案するとともに、当該事業が、平成30年度文部科学省先端研究基盤共用促進事業「新たな共用システム導入支援プログラム」に採択され、部局で管理・利用されていた計99設備（令和元年度末現在）を全学共同利用設備として共用化し、そのうち22設備を学外依頼分析に対応可能な設備として整備している。（中期計画 2-2-2-1） ○ URAとCDの連携・協働 URAとCD（産学官連携コーディネーター）の連携・協働による外部資金獲得支援等により、科学研究費助成事業における新規採択率が向上し、配分額が平成27年度より13%増加するとともに、科研費を除く競争的研究資金の第3期中期目標期間における年平均獲得額が第2期中期目標期間（10億5,478万8,000円）の1.7倍（18億1,486万6,000円）となっている。（中期計画 2-2-2-2） ○ 新型コロナウイルス感染症に係る研究 大学院医歯学総合研究科細菌学教室のグループは、「組み換えBCG（rBCG）技術を利用したCOVID-19ワクチン開発」に向けた研究を開始している。この研究の成果により、新型コロナウイルス感染症に対して長期間の予防効果を発揮しつつ、人体にとって安全で、生産コストに優れたCOVID-19ワクチンの作成が期待されている。（令和2年6月15日公表） 			

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 3項目のうち、2項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定	判断理由
日本海側ラインに位置する大規模総合大学の特色を活かして、「環東アジア地域教育研究機構」を設置し、地域課題をグローバルな視野から検討・提言するとともに、新潟県を中心とした日本海側の地域活性化、地域創生に取り組む。	【4】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「特色ある地域創生事業の実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》	
	(優れた点)	
	○ 特色ある地域創生事業の実施 国際的優位性のある地域や産業に特化して新潟大学が核となり協働体制を構築している。①新潟県及び新潟県酒造組合と日本酒学センターとの共同による「日本酒学」の確立、②新潟大学医歯学総合病院と燕三条地域のモノづくり企業群の連携による「燕三条医工連携事業」、③佐渡自然共生科学センターと佐渡棚田農村群との連携による持続可能な地域社会構築等を進めている。なお、③の取組は、文部科学省DESIGN-i 事業として採択され、かつ、唯一次年度に継続となり、その成果を国の地域創生モデル事業として発信している。(中期計画 3-1-1-1)	
	(特色ある点)	
	○ 産学地域連携の独立採算化 産学連携に関する収支を学内で独立化し、収入に応じて新	

	たな産学連携の取組に再投資を行える財務システムにしたことにより、産学地域連携の収益に応じた事業拡大を自律的に行うことが可能となっている。(中期計画 3-1-1-1)	
小項目 3-1-2	判定	判断理由
社会人の学び直し及び職業人のキャリアアップの機会を広く提供することにより、社会の多方面で活躍しうる人材を育成する。	【4】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「災害医療分野に関する研修の実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 災害医療分野に関する研修の実施</p> <p>医療関係者、地方医療機関医師及び自治体職員等を対象に、医師のみならず災害復興マネジメント人材も含む次世代高度災害医療人材の育成のために、高度災害医療人材養成カリキュラムを構築するとともに、多様な形で全国から受講できるように1万人が受講可能なシステムを構築し、運用している。現在このシステムを利用している履修者は、約500名(平均年間約100名が履修)となっている。また、このe-learningプログラムは、新潟県内はもとより、平成28年伊勢志摩サミット災害対応研修、平成29年鳥取DMAT隊員養成研修会等、全国で開催されている災害医療に関する講習会でも活用されている。(中期計画 3-1-2-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 障害者の生涯学習支援</p> <p>平成15年度から新潟県視覚障害者福祉協会との共同開催による新潟大学公開講座「視覚障がい者のためのパソコン講習」を効果的に実施展開していること(工学部工学科人間支援感性科学プログラムのグループが、地域の視覚障害者に対して、情報収集・発信、就学・就労等に欠かせない「情報機器の活用スキル」を継続して学習する場を長年提供し、地域貢献・障害者支援を行った点等)が評価され、令和元年度</p>		

	「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞している。(中期計画 3-1-2-1)	
小項目 3-1-3	判定	判断理由
地域の教育拠点として、新潟県教育委員会及び関係諸機関とのネットワークの中核的役割を果たし、地域における教員養成及び教員研修の機能を強化する。	【3】	中期目標を達成している ・ 中期計画の判定がおおむね「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 教育学部改革の進展 「新潟大学教員養成機能強化推進会議」を設置し、小学校教員の免許資格取得の必須化とそれに伴うカリキュラム改革や入試改革など全般的な教育学部の改革を行っている。これらの取組については、文部科学省『国立教員養成大学・学部，大学院，附属学校の改革に関する取組状況について～グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集～ Vol. 2』(令和元年5月)において、好事例として選定されている。(中期計画 3-1-3-1)</p> <p>○ 教職大学院の高就職率 平成 28 年度に教職大学院を設置し、さらに教育実践学研究科に改組・拡充することにより、現職教員院生の修了後における管理職や指導主事等のキャリアパスにつなげるとともに、平成 29 年度、平成 30 年度及び令和元年度においては、学部卒大学院生の修了生の正規教員就職率 100%を達成している。(中期計画 3-1-3-2)</p> <p>○ 地域での教育拠点化 教職大学院が主催する年 2 回のフォーラム及び教職大学院修了生を中心とする「新潟教育実践研究会」を開催し、教職大学院の院生・修了生・教員に加え、地域の教員や学校関係者、市民とともに教育について情報交換をしたり、実践研究を交流したりする場を提供することにより、地域の教育拠点としてのネットワークを構築し、研究成果等を地域に波及させている。(中期計画 3-1-3-2)</p> <p>※ 中期計画 3-1-3-1 については、新潟県における小学校教員の占有率において、当該県における採用状況という外的環境要因等が大きく変化したため、このような状況を勘案して総合的に判断した。</p>	

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
環東アジア地域を基点に世界を見据え、教育、研究及び社会貢献を通じて世界の平和と発展に寄与するため、キャンパス・グローバルイゼーションを実現する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 海外の大学との学术交流の進展 韓国やオーストラリアにおけるソーラー燃料システム分野の国際共同研究を実施し、また、ミャンマーにおける感染症研究等、環東アジア地域を基点に世界を見据えた研究及び社会貢献を行っている。(中期計画 4-1-1-4) ○ 環東アジアに関する研究の推進 「環東アジア地域教育研究ネットワーク (EARNet 機構)」において、新潟大学による世界各国・地域における共同研究や教育プロジェクトに関する情報をデータベース化している。この情報を「国際連携活動データベース」として系統的に可視化し、国内外の教育研究機関、産業界及び地方自治体に向けて発信・公開している。また、「環東アジア研究センター」を全学共同教育研究組織として設置し、人文社会科学から自然科学に至る広範な分野で、環東アジアに焦点を当て		

	<p>たグローバル人材育成と地域研究、グローバルな視野から地域課題の解決に向けた研究や社会貢献に係る取組を行っている。(中期計画 4-1-1-1)</p> <p>○ グローバル化の推進</p> <p>大学間交流協定締結数を第2期中期目標期間末の1.8倍(平成27年度50件、令和元年度90件)に増加させるとともに、「大学の世界展開力強化事業」等の実施により、外国人学生数や(平成27年度798名、令和元年度1,125名)海外留学者(第2期中期目標期間平均500名、令和元年度607名)が増加している。(中期計画 4-1-1-2)</p>
--	--

(2) 大学間連携による教育・研究等に関する目標(中項目 4-2)

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「大学間連携による教育・研究等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 4-2-1	判定		判断理由	
国立六大学連携コンソーシアム(千葉大学, 新潟大学, 金沢大学, 岡山大学, 長崎大学, 熊本大学)をはじめとした他大学との連携を推進し, 教育・学術研究・社会貢献等の機能を一層強化するとともに, グローバル社会をリードする人材を育成し, 学術研究を高度化させる。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 	
		≪特記事項≫		
		(特色ある点) ○ 日露大学間連携の推進 新潟大学が環東アジアの知のゲートウェイとなるべく、北海道大学と共同で、「日露経済協力・人的交流に資する人材育成プラットフォーム」事業(文部科学省「大学の世界展開力強化事業」として採択)を実施し、医学医療をはじめとした日露間の大学間連携を進めている。(中期計画 4-2-1-1)		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 教育に関する目標	【3】	達成している 3.47 うち現況分析結果加算点 0.10	【3】
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	達成している 3.40	【3】
小項目1-1-1 新潟大学は、日本海側ラインの中心新潟にある大規模総合大学の特色を活かし、学士課程において教養教育と専門教育が融合した学位プログラムを深化させ、地域課題など現代の複雑な課題を解決できる、専門分野に立脚した人材、幅広い分野に適応する能力と専門知識を兼備した人材を育成する。	【4】	優れた実績を上げている 3.00	【4】
中期計画1-1-1-1(★)(◆) 【1】本学が全国に先駆けて整備した主専攻プログラム(学位プログラム)において、各分野のミッションの再定義並びに主体的な学修への転換に合わせて、人材育成目標と学位授与方針(ディプロマポリシー)を平成28年度に見直す。この新たな人材育成目標の下で、平成30年度を目途に、教育課程編成方針(カリキュラムポリシー)、入学者受入方針(アドミッションポリシー)を含めた3つのポリシーを統一的に再整備し、主専攻プログラムごとに総括的評価を行うための成果指標を明確化する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-2(★)(◆) 【2】複雑化する社会の課題、とりわけ新潟県を中心とした日本海側地域の課題を、複眼的な視野を持ち総合的に解決できる人材(ソリューション志向型人材)を育成するために、多様な学問領域を教育できる本学の総合力を活用して、解決すべき課題を中心に分野融合的に学修する新たな教育システムを、平成29年度を目途に構築し展開する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目1-1-2 地域に根ざし世界で活躍できる課題発見・解決能力に富んだ人材を育成するために、主体性を重視した教育課程を整備し、学生の自律的な学修を強化する。	【4】	優れた実績を上げている 3.00	【4】
中期計画1-1-2-1(◆) 【3】平成29年度を目途に、学内外での問題解決型学習(PBL)等を通じて受動的学修態度から能動的学修態度への転換を図る初年次教育を構築し、それに続き高年次にも能動的学修を拡充する。また、この拡充に合わせ、本学が先進的に開発し導入している自らの学修成果を確認・評価する「新潟大学学士力アセスメントシステム(NBAS)」を活用し、教育効果を向上させる。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-2-2(◆) 【4】学生の学修に対する主体性と動機づけを高めるために初年次を中心とした長期学外学修を推進し、地域の人々や団体との協働により課題探求・解決への志向性を育ていく「地域の教育力」等を活かした授業科目を平成29年度を目途に整備する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-2-3 【5】人文社会科学系における演習や地域連携教育等を含むアクティブ・ラーニング、自然科学系におけるインターンシップ等の実践的な取組、医歯学系における学外施設での参加型臨床実習など、各教育プログラムの特性に応じた課題発見・解決能力を涵養する教育方法を拡大・強化する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目1-1-3 大学院教育課程において、チャレンジ精神に満ち、高い専門性と汎用的かつ実践的能力を有する高度の専門的職業人及び研究者を養成するため、学位プログラムを継続的に改善し、時代の要求に即応することのできるより進んだ学際的な教育研究を行う。	【3】	達成している 3.00	【3】
中期計画1-1-3-1(★) 【6】大学院教育課程において、研究力に加え、広い視野と教養を持ち、社会への適応能力の高い人材を育成するために、学士課程と大学院教育課程が一体的に構成されたカリキュラムや分野が融合したカリキュラム等を開発し、教養教育も含め、各分野の特徴に合わせた教育課程を平成29年度を目途に整備する。これに対応して学位授与方針、教育課程編成方針及び入学者受入方針を構造化した学位プログラムを整備し、検証を行う。	【3】	優れた実績を上げている	【3】

新潟大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
小項目1-1-4	新潟に基軸を置き、アジア、世界で活躍するために必要となる異文化理解能力を備え、社会の国際化に柔軟に対応できる人材を育成する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-1-4-1(※)	【7】学生の実践的英語運用能力の向上を図るために、総合的な英語学修システムを平成29年度までに整備する。また、アジアの言語など複数の外国語を学修するカリキュラム及び異文化理解に資するカリキュラムを整備するとともに、学生の海外派遣を計画的に行い、海外留学生数を倍増させる。	【2】	実施している		【2】
小項目1-1-5	授業科目における学修成果をより正確に保証するために、各教育プログラムの成績評価を改善する。	【3】	達成している	3.00	【3】
中期計画1-1-5-1	【8】各教育プログラムで、能動的学修の整備に合わせて、成績評価の指標を見直す。特に、能動的学修についてはルーブリックを用いるなど、成績評価の指標を明確化する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中項目1-2	教育の実施体制等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	3.60	【4】
小項目1-2-1	学生の主体性を重視した教育課程への転換に合わせ、各教育プログラムにおける授業科目を円滑かつ適切に開設する体制を整備する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画1-2-1-1	【9】授業科目を円滑かつ適切に開設する体制を整備するために、教育・学生支援機構による支援の下、教育組織において授業科目を精選して体系化するとともに、教員組織である学系における科目担当教員の派遣体制を見直す。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目1-2-2	人材育成目標に対する学修成果の評価により、学修の質を保証する新たな体制を整備する。	【3】	達成している	3.00	【3】
中期計画1-2-2-1(★)	【10】人材育成目標に対する到達度を評価する各教育プログラムでの体制と、各教育プログラムにおける学修成果の評価を支援する全学的な体制を平成32年度までに整備し、実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目1-2-3	能動的学修の拡充、学事暦の柔軟化及びソリューション志向型人材育成を目的とする新たな教育システムの導入を円滑に行うため、教育支援体制を整備する。	【3】	達成している	2.67	【3】
中期計画1-2-3-1(★)	【11】能動的学修の拡充と継続的な改善を支援する全学的な体制を強化するため、平成28年度に教育・学生支援機構を再編する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-2-3-2	【12】平成29年度に学事暦をクォーター制により柔軟化し、長期学外学修や短期留学など多様な学修プログラムを行える教育環境を整備するとともに、その新たな環境に対応できる教育情報基盤システムを整備する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-3-3	【13】ソリューション志向型人材育成のための学部・学科にとらわれない新たな教育システムの開設に合わせて、教員が複数の教育プログラムを柔軟に担当する体制を整備する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
小項目1-2-4	全学的なファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を活性化し、教職員の教育能力を向上させる。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画1-2-4-1	【14】学位プログラム化、主体的学修の促進など本学の教育機能強化に適切に対応できるよう、階層化されたFDを全学的に展開し、年間で全教員の75%のFD参加を実現する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目1-2-5	佐渡島の森、里、海の自然豊かな環境の中に位置する本学の施設を活用した実践的・融合的な教育を活性化させる。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画1-2-5-1	【15】教育共同拠点としての「佐渡自然共生科学センター演習林」及び「佐渡自然共生科学センター臨海実験所」において、大学間連携の拡大や多様な形態の実習等により、フィールドワーク人材育成機能を強化する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中項目1-3	学生への支援に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	3.50	【4】
小項目1-3-1	一万人を超える学生を抱える本学において、多様な学生の向学心と主体性を支え、安心して学生生活を送れるように、学習支援、健康面での支援及び経済的支援を充実させる。	【3】	達成している	2.50	【3】
中期計画1-3-1-1	【16】学生の主体的学修を促進するため、本学が先進的に開発し導入している「新潟大学学士力アセスメントシステム(NBAS)」等を用いた履修指導、ラーニング・コモンスの拡充など学習支援体制を強化する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-2	【17】教育・学生支援機構と各学部・研究科等が連携して、障がいのある学生に対する合理的配慮に関する理解を深めるための研修を実施し、学生の障がいに応じた就学・修学支援を行う。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-3-1-3	【18】健康面や精神面を含む学生の多様なニーズに対応した学生相談を実施するために、相談業務に携わる教職員に対する研修機会の増加や教育・学生支援機構と学部・研究科の情報交換会の拡充など、相談体制をより強化する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-3-1-4	【19】学生支援に係る補助業務等に従事した学生に対し謝金を支払う経済的支援制度(学生スタッフ制度)を継続的に実施するとともに、本学独自の給付型奨学金の対象を学部学生のみでなく大学院学生にも拡大する。	【2】	実施している		【2】
小項目1-3-2	学生の主体性を重視し、満足度を高める進路・キャリア形成支援を実施する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画1-3-2-1	【20】自ら進路を切り開く能力を高めるキャリア教育、多様な形態のインターンシップ、きめ細かい進路支援を適切に行うため、教育・学生支援機構と各学部・研究科の連携体制を見直す。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

新潟大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目1-4 入学者選抜に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-4-1 課題の発見と解決において重要となる「学力の三要素」(知識・技能, 思考力・判断力・表現力, 主体性・多様性・協働性)を含む人材育成目標に対応した入学者受入方針の改善と入学者選抜制度への転換を行う。	【3】	達成している	2.50	【3】
中期計画1-4-1-1 【21】 各分野のミッションの再定義並びに主体的な学修への転換に合わせて人材育成目標を再設定し, 入学者受入方針を改善するとともに, 多面的・総合的な選抜方法や大括り入試など新たな入学者選抜制度を導入する。また, そのための全学的な支援体制を整備する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-4-1-2 【22】 高等学校と大学の教育課程の接続を円滑にし, 「確かな学力」を身につけた学生を受け入れるため, 「新テスト」導入を見据え, 協議体等を設置して高等学校と意見交換を行うなど密接に連携して, 入学者選抜方法を改革する。	【2】	実施している		【2】
大項目2 研究に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	3.58 うち現況分析結果加算点 0.08	【4】
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
小項目2-1-1 脳疾患に関する国内有数の研究施設である脳研究所を中心に, 基礎と臨床の一体化を基盤とした先端的かつ高度な脳疾患研究・医療を実践する国内・国際共同研究拠点を形成する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画2-1-1-1(★)(◆) 【23】 脳研究所において, 医歯学総合病院と連携し脳疾患先端医療を実践するクリニカルリサーチセンターを設立し, ミッションの再定義で特記された脳画像研究, 脳神経病理研究等とこれまでの実績に裏打ちされた脳疾患医療を有機的に融合・統合させた「こころと脳疾患研究」及び「脳疾患先端医療」を実践する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-1-2(★)(◆) 【24】 アルツハイマー病など脳の難病の克服に向け, 国内外の共同研究先との連携・交流を通じて独創的な脳画像・病理研究を躍進させ, 環太平洋における脳疾患病態研究の国際拠点を確立し, 国際的な視野の下にヒト脳神経疾患の克服, 更にはヒト高次脳機能の解明を通じて, 脳神経難病の超早期診断法を確立する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目2-1-2 特定分野における先端的研究, 強み特色のある研究を重点的に推進し, 優れた成果を発信する研究拠点を形成する。	【4】	優れた実績を上げている	2.67	【4】
中期計画2-1-2-1 【25】 日本海側ライン唯一の「災害・復興科学研究所」の国内共同研究拠点化を進めるとともに, 国際的に評価される研究所を目指して, 国内外の機関との研究ネットワークを構築し, 斜面防災研究など, 巨大地震・火山活動や複数の要因による複合災害の研究を展開する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画2-1-2-2 【26】 研究推進機構超域大学院を, 国際的研究, 特色ある研究, 先端的研究の拠点とするため, 国内外から優秀な研究主宰者(PI)を集め, 学内の有力研究者と連携・融合した研究を行う組織(トップ研究者サロン)に再編する。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-2-3(★) 【27】 口腔QOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上研究, 量子科学研究, 環境・エネルギー研究, 情報通信工学研究, 環東アジア研究, 腎研究, コホート研究など特色ある研究の充実・発展のために, 国内外における研究ネットワークを強化し, 研究成果を積極的に発信する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
<p>小項目2-1-3</p> <p>学問(研究)の自由を保障し、自然科学から人文社会科学にわたる幅広い分野の基礎・応用研究力をより強化するとともに、分野を超えた融合研究を創出する。</p>	【4】	優れた実績を上げている	2.60	【4】
<p>中期計画2-1-3-1</p> <p>【28】自然再生学の文理融合型研究を推進するために「朱鷺・自然再生学研究センター」の組織を整備し、佐渡島における関連施設と有機的に連携した学際的環境科学の研究拠点とする。</p>	【3】	優れた実績を上げている		【3】
<p>中期計画2-1-3-2(*)</p> <p>【29】幅広い分野の基礎・応用研究について、国際的な研究交流や共同研究を推進するために、国際的に評価の高い学術誌への投稿や国際会議への参加・誘致を支援し、国際会議発表数を第3期中期目標期間末には平成27年度と比較して10%以上増加させる。</p>	【2】	実施している		【3】
<p>中期計画2-1-3-3(★)</p> <p>【30】異分野融合研究を推進するために、生体医工学、フードサイエンス、医学物理など学内外の共同研究を強化する。</p>	【3】	優れた実績を上げている		【3】
<p>中期計画2-1-3-4</p> <p>【31】研究者の自由な発想と熱意に基づき次世代を担う研究とイノベーションを萌芽させるために、科学研究費助成事業・挑戦的萌芽研究の申請を支援し、第2期中期目標期間の平均と比較して10%以上申請数を増加させる。</p>	【2】	実施している		【2】
<p>中期計画2-1-3-5</p> <p>【32】知的財産を適切な評価に基づいて戦略的に権利化を進め、イノベーション創出に向けて知的財産を効果的に活用し、多様な手段により国内外に広く発信する。</p>	【3】	優れた実績を上げている		【3】
<p>中項目2-2</p> <p>研究実施体制等に関する目標</p>	【3】	達成している	3.00	【3】
<p>小項目2-2-1</p> <p>若手研究者が主体的に課題を設定し、挑戦的な研究に取り組むことができるように、研究者の育成・支援のための体制を整備し、国内外から能力の高い若手研究者を確保する。</p>	【3】	達成している	2.00	【3】
<p>中期計画2-2-1-1</p> <p>【33】各学系・研究所、超域学術院の特性に合わせた良好な研究環境を整備するとともに、国際公募によるテニュアトラック制の拡大、研究の成果に基づくインセンティブの付与等によって、多様な若手研究者を育成する。</p>	【2】	実施している		【2】
<p>小項目2-2-2</p> <p>研究の質を向上させるとともに、社会からの要請等に柔軟に対応できる研究支援体制を構築する。</p>	【3】	達成している	2.67	【3】
<p>中期計画2-2-2-1</p> <p>【34】研究の基盤的な環境を充実させるため、共同研究スペースの十分な確保、学内共同利用施設の統廃合及び大型・中型機器等の研究設備の計画的整備を行う。</p>	【3】	優れた実績を上げている		【3】
<p>中期計画2-2-2-2</p> <p>【35】リサーチ・アドミニストレーター(URA)と産学官連携コーディネーター(CD)が連携・協働し、競争的研究資金獲得に向けた情報収集・分析及び研究計画の策定支援・検証を行う。また、獲得した研究資金を用いて、基盤的研究や先端的研究を行うための研究環境を整備する。</p>	【3】	優れた実績を上げている		【3】
<p>中期計画2-2-2-3</p> <p>【36】研究の質を向上させるため、評価の高い学術誌への論文発表、大型外部資金の獲得等の実績に基づき、評価を行った上で研究に専念できるような重点支援をする。</p>	【2】	実施している		【2】

新潟大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	3.66	【4】
	なし	—	—	なし
小項目3-1-1 日本海側ラインに位置する大規模総合大学の特色を活かして、「環東アジア地域教育研究機構」を設置し、地域課題をグローバルな視野から検討・提言するとともに、新潟県を中心とした日本海側の地域活性化、地域創生に取り組む。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画3-1-1-1(★)(◆) 【37】環東アジアの地域交流の中で、地域の雇用創出や活性化事業を行う「地域創生推進機構」を平成28年度に設置し、日本海側の地域課題について、国際的な比較調査に基づき提言するシンクタンク活動、高付加価値型事業展開を目的とした産学共同連携事業、魅力あるまちづくりの提案等の地域創生事業を地方自治体や地域産業と連携して行う。更に、環東アジア地域に整備する海外リエゾンオフィスを活用して、グローバルな視点から地域課題に取り組むことのできる人材育成機能と環東アジア地域研究機能を強化する。この成果を活かし、平成30年度に「環東アジア地域教育研究機構」を設置し、地域創生事業を強化する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目3-1-2 社会人の学び直し及び職業人のキャリアアップの機会を広く提供することにより、社会の多方面で活躍する人材を育成する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画3-1-2-1 【38】社会人・職業人のニーズや多様な背景を考慮して、大学院の社会人受入れを拡充するとともに、授業科目や公開講座を受講しやすくするためにウェブ教材を活用するなど、生涯学び続けることができる教育体制を整備する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目3-1-3 地域の教育拠点として、新潟県教育委員会及び関係諸機関とのネットワークの中核的役割を果たし、地域における教員養成及び教員研修の機能を強化する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画3-1-3-1 【39】教育学部において、実践的指導力の育成・強化を図るため、学校現場での指導経験のある大学教員を平成33年度までに20%を確保するとともに、アクティブ・ラーニングを実践できる能力の育成など現場のニーズに応える実践的カリキュラムの改善等を行うことにより、新潟県における小学校教員養成の卒業生の占有率について、第3期中期目標期間は50%を確保する。	【1】	十分に実施しているとはいえない		【1】
中期計画3-1-3-2 【40】新潟県教育委員会等との連携・協働により、平成28年度に教職大学院を設置し、学校改革を推進する実行力の育成や通常学級における特別支援教育など、地域の教育課題等に対応できる教員を養成するとともに、修了者の教員就職率について75%を確保する。また、地域の教育拠点としてのネットワークを構築し、研究成果等を地域に波及させる。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目4 その他の目標	【3】	達成している	3.00	【3】
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目4-1-1 環東アジア地域を基点に世界を見据え、教育、研究及び社会貢献を通じて世界の平和と発展に寄与するため、キャンパス・グローバリゼーションを実現する。	【3】	達成している	2.20	【3】
中期計画4-1-1-1(★)(◆) 【41】平成30年度に「環東アジア地域教育研究機構」を設置し、日本海側ラインの中心に位置する本学の特色を活かし、環東アジアに焦点を当てたグローバル人材育成と地域研究を強化するとともに、グローバルな視野から地域課題の解決に取り組む。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画4-1-1-2(◆)(*) 【42】日本人学生と様々な国の優れた留学生とが切磋琢磨できるキャンパスを創出するため、大学間交流協定締結校を増加させるとともに、アセアン大学ネットワーク(AUN(Asean University Network))等の優れた大学からなるコンソーシアムに加盟し、教育研究交流事業、交換留学プログラムへの参加等により、海外留学生数と留学生数を倍増させる。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-3 【43】大学院におけるダブルディグリープログラム及び英語のみで修了可能なプログラムを拡充し、正規課程留学生を増加させる。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-4 【44】国際共同研究を通じた優れた研究成果の創出など研究活動・能力を向上させるために、海外の大学、研究機関等で長期間研究に専念する在外研究制度を継続的に実施するとともに、海外の学術交流協定校等との相互研究交流を拡大する。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-5 【45】国境を越えた教育・研究・事務に支障なく対応できる組織体制を構築し、キャンパス環境をグローバル化するため、教職員の採用に際し、原則として、各部署における業務に必要な外国語能力など一定のグローバル対応力を求める。既採用職員については外国語(英語)研修プログラム等を設け、グローバル対応力を涵養する。	【2】	実施している		【2】
中項目4-2 大学間連携による教育・研究等に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目4-2-1 国立六大学連携コンソーシアム(千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学)をはじめとした他大学との連携を推進し、教育・学術研究・社会貢献等の機能を一層強化するとともに、グローバル社会をリードする人材を育成し、学術研究を高度化させる。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画4-2-1-1 【46】国立六大学連携コンソーシアムにおいて、東京に設置した国立六大学連携コンソーシアム連携機能強化推進本部を活用し、教育、研究、国際連携等の事業を実施するなど、地域や国内外の大学との連携を強化する。	【2】	実施している		【2】

新潟大学

- ※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。